目で見る明治大学の歩み

明治大学史資料センター

#59

農学部と理工学部の歴史

今回は、理工学部と農学部の歴史について紹介します。理工学部は1944年に駿河台で、農学部は、1946年にかつて農場として利用していた誉田で、産声をあげました。その後、両学部は教室不足などで拠点を変えましたが、最終的に農学部が1951年から、理工学部が1965年から生田キャンパスを使用し、今日に至っています。

（明治大学史資料センター・阿部裕樹）

明治農業専門学校の学生たち

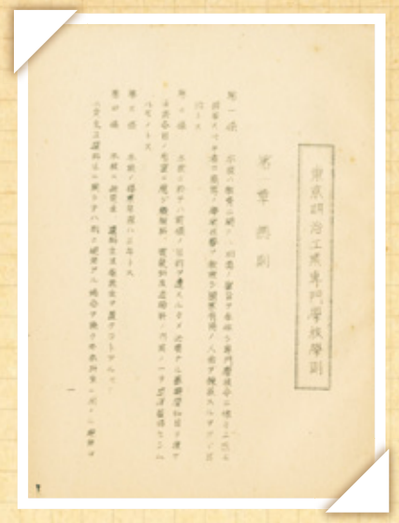
（1947年頃）

農学部の前身である明治農業専門学校の設立は、1946（昭和21）年6月です。設置場所は、かつて農場として利用していた千葉県千葉郡誉田村（現千葉市）でした。1948（昭和23）年9月には駿河台キャンパスに移転しました。

東京明治工業専門学校学則

（1944年）

理工学部の前身である東京明治工業専門学校の設置認可は、戦時中の1944（昭和19）年4月です。設置場所は駿河台キャンパスでした。



工学部が使用した駿河台キャンパス
近くの聖橋校舎（写真上：1952年頃）
新制大学設置認可書（写真下：1949年）

1949（昭和24）年4月、新制明治大学が発足しました。このとき、東京明治工業専門学校を工学部に、明治農業専門学校を農学部に改組しました。発足直後の工学部は、駿河台と和泉、さらに大久保校舎（新宿区）で講義や実験を行いましたが、1952（昭和27）年から駿河台キャンパスと、その近くの聖橋校舎を使用することになりました。

生田キャンパス

（1954年）

発足直後の農学部は、和泉キャンパスを使用して講義を行いました。しかし、1951（昭和26）年に生田キャンパスに移転しました。また、工学部は、1964（昭和39）年から翌1965（昭和40）年にかけて生田に移転しました。

生田キャンパス

（1992年頃）

工学部は、1989（平成元）年に理工学部へと改組しました。生田キャンパスでは、1991（平成3）年1月に中央校舎が完成しました。

生田キャンパス

（2012年）

参考文献『明治大学小史』学文社、2010年